

深イ〜話!

No.4

〜〜これは、東京ディズニーランドでの実話です〜〜

ある日、落し物センターにひとりの男性が、暗い顔でやってきました。子供がミッキーとかミニーちゃんのサインが欲しいとって、園内のいろんなところを回って書いてもらった大切なサイン帳を落としたらしいのです。

キャストは、帰る日を確認し、サイン帳の特徴を詳しく聞いた。お帰りの前にもう一度こちらにお立ち寄りくださいと告げ、男性を送り出しました。

男性が帰ったあと、他のセクション、さらにほかのキャストにも声をかけて、大勢でいっせいに探して回りました。

ところが、どうしても見つからなかった。

2日後、男性が落し物センターに現れました。

「どうでしたか？」

「大変申し訳ございません。全力で探したのですが、サイン帳を見つけることはできませんでした。しかし、お客様、どうぞかわりにこちらのサイン帳をお持ち帰りください。」キャストは落としたサイン帳と同じものをお店で見つけてきて、仕事が終わったあと、いろんなエリアを歩き回り、キャラクターたちにサインを書いてもらったのです。



後日、この男性から手紙が届きました。

脳腫瘍をわずらっていた息子は、物心ついたときから、ディズニーのことが大好きでした。「パパ、いつかディズニーランドへ連れて行って。」と毎日のように言っていました。あと数日で終わってしまうかもしれない。

だから、無理を承知で連れて行ったのです。

夢にまでみた大切なサイン帳を落としたときは、息子の落ち込みようは見ていて苦しくなるほどでした。しかし、あなたが用意してくださったサイン帳を渡したときの息子の顔は、本当に幸せそうな顔でした。

ほんの数日前、息子はサイン帳を抱えたまま、安らかに眠りました。本当にありがとうございました。

いつでも誰かに尽くそうというキャストの気持ちが、亡くなった男の子とそこご両親をどれだけ救ったことでしょうか。